

「私には、一度死んだ日がありました。完全に死んだ日です。ジョージ・ミュラーという人間に死にました。自分の考え、自分の好み、自分の望み、自分の意志に死にました。この世に対しても、その賞賛や批評にも死にました。兄弟姉妹や友人からの評価や非難にさえ死にました。そして、それ以来、ただ神に認められる者となることだけを求めて歩んできたのです。」(ジョージ・ミュラー)

○一粒の麦が地に落ちるとき：三つのキーワード

1. _____(20-23)

※ヨハネ1:11-13

「この方はご自分の国に来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

※ヨハネ2:4

「すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでしょうか。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」」

※ヨハネ7:30; 8:20

「そこで人々はイエスを捕らえようとしたが、しかし、だれもイエスに手をかけた者はなかった。イエスの時が、まだ来ていなかったからである。」

「…しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。」

※ダニエル7:13-14

「私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」

2. _____(24)

「ローマ市民を縛ることさえ犯罪である。鞭打つことは悪行である。死刑にすることは、父親殺しにも等しい大罪である。では、十字架につけることについて何と云えばよいのだろうか。そのような恐るべき行為は、どれほど悪い言葉を用いても、その罪深さを十分に言い表すことはできない。」(キケロ)

※申命記21:23

「木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。」

※ガラテヤ3:13

「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。」

3. _____(25-26)

▶「自分のいのち」「そのいのち」(“プシューケー”)

▶「永遠のいのち」(“ゾイ”)

※マタイ10:37-38

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。」

※ルカ9:23-24

「イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。」

※ルカ14:26-27

「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分の命までも憎まない者は、私の弟子になることができません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。」